夏油　経塚山（山スキー）

2011 年 4 月 16 日
松田

４月１６日（晴れ後曇り後　雷雨　風強し）

先々週、夏油駒ケ岳から見た経塚山は白くて大きかった。先週は余震の影響、今週は仕事で、天気のいい日曜に山に行けず、前線が通過して天気が悪くなると分かっていても、今日しか行ける日がない。　早起きして崩れる前に登ってしまおうということで、いつもより早めに出て、駒の金ヶ崎側登山口に向かう。林道は登山口の１０分くらい手前まで入ることができた。登山口より少し歩いてスキーを付け、登り始めると、すぐにきれいなブナ林のゆったりした登りとなる。夏油山地は豪雪のせいか、実にブナがきれいだと思う。駒の肩に出るとまだ空は明るく、視界もいいので、これは行けるなと思った。駒の最後の急登を越えると、真新しい社の山頂に着いたが、前回より大分雪が減っていた。ここから見る経塚山は結構遠く見え、２時間くらいだそうだが、もっとかかりそうにも思える。少し雲が出てきたが、天気がもってくれることを祈り、シールをつけたまま駒の西のコル目がけてなり、滑り降りる。その先は主稜線をショートカットして、左の斜面をトラバースしていく。細かい登り下りが続くが、古いトレースがたくさんあり、結構メジャーなコースのようだ。

◆まさかの雷！

経塚山の最後の登りに入り、ピークまであと２００ｍくらいの所に来た時、ポツと頬をたたくものがある。雨だ！いよいよ降ってきたが、まあもうすぐピークだから、と雨具を着て登り始めると、ピカッ、ドドーンと雷鳴が響いた。エーッと思ったが少し待っていると降りが強くなり、また雷鳴が響く。これはもう無理ということで、急いでシールを外して滑り降りる。風、雨が強まり、最低の天気になってきたが、幸い雷はあまり鳴らず、本降りの中、駒を目指してひたすら戻る。

駒の手前のコルに着くと、またバリバリッと稲光りが走り、しばらく動けそうもないので、ツェルトでも出そうかと思ったが、やはり面倒なので、雨の中、濡れねずみでしばらく待機。駒で帰れば良かったと少し悔やむ。
また、歩き始めるが風が強烈で、時々風の弱まるのを待って歩くような感じになる。
駒のピーク寸前でまた、ピカピカッと稲光りが走り、潅木の中に座ってまた待機。幸い経塚山の方は明るくなってきて、雨も収まり、雷雲は通過したように思える。しかし吹っ飛ばされそうな風はやまず、駒の社の陰でシールを外し、山頂直下の斜面を、風にあおられながら慎重に下る。少し降りるとあとは快適なざらめの斜面になり、駒の肩まで戻った。肩から南東に滑っていくのであるが、どうも方向がおかしいような気がして、３０分程ロス。結局思い過ごしで、ツボのトレース通り滑って登山口へ。
快適なざらめの滑降は、あっという間に終わってしまった。帰り道は、いつもの夏油水神温泉で一汗流して北上に戻る。
寒冷前線が通過する時は、山行は控えた方が賢いなと感じた。

駒ケ岳から経塚山

コースタイム
登山口（７：３０）－　駒ヶ岳（９：２０）　－経塚山山頂下（１０：５０）－駒ケ岳（１２：００）－　登山口（１３：３０）
地形図　　川尻（五万分の一）